

か。とにかく高温材料科学の分野にどのような研究者がいるか、ある程度分布図を描くことができたことは疑いない。今回種々の分野の研究者が集まったが、皆それぞれホームグラウンドにしてきた学会があるのに、高温シンポジウムに参加してきたことは、それぞれのホームグラウンドでは生まれられないような議論を期待していたからに相違ない。そのためには話す形式を自分のホームグラウンドでやるのと全く同じというのでは意味がないと思う。なるべく集まった他の分野の研究者との接点が得られるように話の質、重点の置き所を考えなくてはならない。その接点が何処にあるかということは、このような試みを何回か行えば、自然にコンセンサスが得られるものである。

とにかく1回の試みで失敗、成功を云々するのは早すぎると思われる。シンポジウムの形式でなくても、来年以降も熱測定学会の討論会に“非熱量測定”の熱力学分野の研究者が集まって討論することは、日本の材料科学研究のポテンシャルを高めるためにも非常に意味があると思う。また熱測定学会の方々も“熱力学量測定”の研究者をお客様でなく仲間として受け入れて頂けるものと確信しております。

以上勝手な感想を書きましたが、このシンポジウムをお世話された谷口教授と熱測定学会の関係者の方々の御苦労に厚く御礼申し上げます。

## 内外情報

### ★20th Prague Microsymposium on Macromolecules. Microcalorimetry of Macromolecules.

1979年7月16日～19日、プラグで開催の予定。

次の三つのトピックスが予定されている。

- 1) Heat capacities of macromolecular substances in bulk and in solutions: characterization of phase transitions (e.g. crystallization, glass transition etc.) and structure of amorphous and crystalline phases. Structures in solutions and their changes (e.g. intra- and intermolecular ordering, conformational transitions, dissociation of molecular complexes etc.).
- 2) Heats of physical and chemical changes (sorption, swelling, solution, polymerization, polyreaction etc.).
- 3) Calorimetric methods and instrumentation: “Quasistatic”, vs. dynamic measurements and slowness of changes in macromolecular systems.

予定されている招待講演者は次の通りである。

H. Baur (F.R.G.), R. L. Biltonen (U.S.A.),  
J. E. Desnoyers (Canada), F. E. Karasz (U.S.A.),  
D. Patterson (Canada), P. L. Privalov (U.S.S.R.),  
I. Wadsö (Sweden), B. Wunderlich (U.S.A.).

一般発表は展示時間90分のポスター発表と10分間の口答発表(いずれも討論時間を含む)とがある。それ以外に上記トピックスの主題に沿った討論セッション(1討論10分以内)が予定されている。

Second circular は、1979年1月に発送される予定である。関心のある方は下記までご連絡下さい。

P. M. M. Secretariat  
c/o Institute of Macromolecular Chemistry  
16206 Prague 616  
Czechoslovakia

### ★第6回国際化学熱力学学会

(6th International Conference on Chemical Thermodynamics)

上記学会は、当初は1979年夏にオーストラリアでの開催が予定されていたが、都合により変更され、1年延期して、明後年の1980年8月26日～29日に、東ドイツ Merseburg の Technische Hochschule “Carl Schoeemmer” で開催されることとなった。詳細は1979年3月ごろまでに発表される予定である。

### ★第6回国際熱分析会議

(6th ICTA)  
本号会告参照